



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第
10号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第7巻第10号). 泌尿器科紀要 1961, 7(10): 946-946

ISSUE DATE:

1961-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112197>

RIGHT:

編集後記

医学界新聞の本年9月4日号に高木貞敬教授の「欧文抄録について」と題する文章がある。之は時実教授が「生体の科学」8巻1号に書かれた文章に関連したもので その要旨は次の如くで

時実教授によると 外国の学者は 日本語の論文は勿論 英文抄録が付いていても 問題にせず その論文の Priority も認めないとの事。従つて英文抄録を付けても意味がないとの結論が出される。更に英文抄録を読む外人が その Idea を奪つて仕事を仕上げ 自分の original なものとして発表し 日本語の原著を引用しない事も考えられる。欧米では激しい研究競争から Priority を極めて重視し 自分の現在の研究については全く沈黙し その反面 他人の研究には強い関心を持つている。日本人は能力に於ては劣らないのに このような事情であるとなると 残念ながら日本語の論文は日本語だけで書き 英文抄録は付けないか 或は付ける位ならば 全部を欧文で書くようにしたい。

大体 以上の如くである。云われてみると考えさせられる問題である。日本語の論文が世界に認められない事は残念ながら仕方がない。英文抄録も認めず 然かもその Idea をとつて自分の original のものとするのは けしからぬ話であるが 之も泣き寝入りせざるを得ない。そこで理想的な事は 原著を日本語と欧文との両方で発表する事であるが 之は種々の理由によつて実現は容易でない。それでは具体的にどうしたらよいか 和文だけでよいか 英文抄録は付けない方がよいか その点 私にも 現在の所 はつきり判らぬ。唯 和文だけでは やはり狭いように思われる。従来通りの英文抄録を付けるやり方には 上記のような難点はあるとしても 利点もあるので 当分はこのままで行きたい。



群馬大学に泌尿器科講座が新設せられ 教授に志田圭三博士が就任せられた。慶賀。



諸般の事情により本誌の年間料金を昭和37年より 1,200円に致したいと思います。恐縮ですが御協力下さるよう お願い致します(昭和36年10月)



購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金を1,000円を前納する。1冊料金 100円、払込みは振替口座番号京都4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. J. Urol., 45：527, 1941.
5. 300語以内の英文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します 抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 600円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈、それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は初校のみ著者校正とし、再校以降は編集部が行う。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。